

パネル2.  
クラス目標は学習者の「考えていること」の言語化

ー実践の紹介

クラス名：考えるための日本語1

- 実践先：早稲田大学日本語教育研究センター
- 学習対象：初級の日本語学習者
  
- 実践期間：2009年9月28日～2010年1月27日  
16週間／全75コマ（月2コマ・火2コマ・水1コマ）
  
- 担当教師：3名
- 学習者：4名（欧米3名、アジア1名）
- ボランティア：4名（月2名・火1名・水1名）

## クラスの目標

- 『実際の講義要綱から抜粋』

このクラスの目標(aims)は、自分の「考えていること」を日本語で表現し、相手の「考えていること」を日本語で理解することです。

このクラスでは、自分のこと(興味があること)について話し、文章を書きます。そして、それをみんなで読んで、話し合い、そのために必要は表現を勉強します。

## 実践開始時の様子

- 学習者は全員一来自日したばかり
  - 一 日本語学習を始めたばかり(開講1週間前にひらがなを覚えた者が1名)  
⇒クラスでの共通語は「日本語」であるが、日本語による滑らかなやり取りは不可能な状態
- 全員、辞書持ち込み
- 自身の言いたいことの「キーワード」のみを書き込んだ用紙を用意、その内容を共有

## クラスの展開

- 「クラスではお互いのことをよく知りたい」  
: 個人に関する情報の紹介 ⇒ 各自の興味のあること／考えていることの詳細へ

- 自己紹介(表面的な紹介)



テーマを決めての自己紹介  
(一人ひとりの素顔に迫る紹介)

- ①私の旅行 ②私のふるさと ③私の将来の夢

## クラス活動の流れ

活動期間	活動内容
1～2週 (9月28日～ /2週間)	自己紹介
3～6週 (10月12日～ /4週間)	わたしの旅行
7～9週 (11月9日～ /3週間)	わたしのふるさと
10～12週(11月30日～ /3週間)	わたしの将来の夢
13～16週(12月21日～ /4週間)	作文作成と文集製作

## クラス活動中の様子

最初、学習者はテーマに関して、自分の情報ばかりを並べた



教師は、個人の「経験・感想・思い・意見・・・」などに触れる質問を投げかけ、内容が深まるようにした



徐々に学習者間においても互いの話を深めるための質問をするようになった

## わたしの旅行①

### ■ 1回目の紹介

主に自分のこれまでの旅行先の紹介とその地で何をしたのかの羅列

⇒ 教師の質問:「一番よかった旅行はどこか」

### ■ 2回目の紹介

一番の旅行について。旅行のきっかけ、旅行地でのエピソードはもちろん、個々人の好き嫌いや当事の気持ちなどが明らかになった

⇒ 教師の質問:「なぜ一番の旅行なのか」

## わたしの旅行②

- (10/28 教師の授業記録から)

Aさん: 2年前・アイスランド・友だちと二人で・火山・くじら・溶岩フィールド・砂漠・滝・ヒッチハイク・キャンプ

「なぜ一番ですか？」

冒険が好きだから。冒険は刺激があるから。普段の生活は安全がよいが、旅行は少し危険がよい。(それは)チャレンジすることによって、自分の生きるスキル(技術)をチェックできるから。

自分の再発見・旅行の意味の再確認

## わたしのふるさと①

- 1回目の紹介

人口・面積・名所・食べ物・・・など、地域の説明を自身の「ふるさと」として紹介

教師自身のふるさと紹介:

たぶん私のふるさとは場所ではありません。(省略)私のふるさとは家族です



「ふるさと」の意味についての話し合い

- 辞書的意味のふるさと
- 心のふるさと

## わたしのふるさと②

### ■ 2回目の紹介

(11/18 教師の授業記録から)

#### 【学習者から出た言葉】

気持ちいい、古い思い出、家族、友達、短くない時間を過ごした場所、なつかしい、大切なもの

Bさん:目を閉じるとふるさとはみえる。いい気持ち。

私の生活＝ふるさとの生活 (11/23)

「ふるさと」の意味を再定義

## わたしの将来の夢①

### ■ テーマ決めの際から、「視点」が取り上げられた(夢の)

- － 実現可能性が高い⇔低い
- － 短期間で実現可能⇔長期間を要する

### ■ 1回目の紹介

- 各自の視点がさらに加わった
- － 子ども時代の夢と大人になってからの夢
- － 古い夢と新しい夢
- － すでに実現できたものとこれから目指したいもの
- － 仕事面の夢、趣味面の夢

## わたしの将来の夢②

- 教師からの質問  
「いろいろな夢の中、最高の夢は何か」  
「それはどうしてなのか」
- 学習者間の質問  
「経済の教授になりたい、の物語を聞きたい」  
「夢と(あなたのいう)冒険の関係が聞きたい」



将来の夢の根源までを探る問いかけ

## わたしの将来の夢③

- クラスメンバーによる問いかけ



生きていく中で自分が常に大切にしてきたものは何かを改めて考えるきっかけ  
+  
さらにそれを言葉で表現する機会の提供



活動は、単なる将来の夢の紹介に留まることなく、やがては自分自身のこれまでの人生を振り返り、今後の生き方を今一度考える場となった

## 作文作成及び文集製作

### ■ 作文作成

旅行／ふるさと／将来の夢の作文を作成



提出作文をみんなで読み合い、内容・表現をともに検討・推敲



文集用原稿完成

### ■ 文集： クラス活動の記録物

## 日本語の学習

### ■ 文法レビュー・語彙整理

・学習者からの要望：

「クラスで使った文法と単語を復習したい」

・活動期間中、2回実施： 7週目／15週目

毎授業後の教師による「出てきた表現・教師が提示した表現」の記録 + 各学習者のノート



両者の記録やメモを出し合い、それまでの発表を振り返りながら、一緒に内容整理

## クラス活動のまとめ

- 「キーワード」は具体的な名詞から抽象的な概念へ
  - 自分にとっての意味づけがなされる  
ことばは辞書的意味を乗り越え、自分にとっての意味を含むものへ
- ⇒ 自分の話をするために「日本語を借りる」のではなく、自らの話にもっともふさわしい「日本語を選ぶ」

## 本クラス活動の意義①

- 本クラスにおける日本語

日本語は「疎通のための主言語」

クラスで日本語は常に学習者の「言いたい内容」と密接に結びついていた。各自の話が続けていくためにどうしても必要な表現や文法項目はその場で確認され、学習者はそれらを存分に活用しながら自分の話を進めた

学習者は日本語を用いて自分について話すと同時に日本語で自分の考えを表現する力をも培っていくことができた

## 本クラス活動の意義②

- 「対象との関係」への問い

「どうしてそう思うのか」

「そのことがあなたにはどんな意味があるのか」

↓

教師による「あなたと対象との関係」への問いを  
次第に学習者間も問い合うようになった

↓

学習者はクラス活動中、自分を振り返ることによって、自らを再発見し、自分が用いたことばの意味を再確認、再定義した。またそのことによって、生身の人間として生きていく上で自身が大切に思うことをことばにして言い表し、またことばを、自分にとっての意味を含めて再定義することができた。

## 実践者としての考え方

- 「クラスコミュニティの形成」について

日本語クラスは「教える者－教わる者」の役割が固定した  
**垂直構造**の関係が多い

本クラスで教師は、参加者みんなが「平等な立場で話し合う」**水平構造**の関係の形成に力を注いだ

↓

このような環境ができて始めて一人ひとりの学習者が  
クラス活動に主体的に参加するようになり、自らの手で  
学びを起こしていくことができると思っている

## ■ 参考文献

- 金 龍男・武 一美・古屋 憲章(2009)「人と人の間にことばが生まれるとき－教師自身による実践研究の意義－『早稲田日本語教育学』第7号 p25
- 森元桂子・金龍男・武一美・坂田麗子(2009)「学習者が主体的に参加するとき－総合活動型日本語教育の初級クラスの実践から」『言語文化教育研究』7&8早稲田大学日本語教育センター p100